

平成29年度鳴門市撫養小学校学校評価アンケート結果と考察

1 学校評価の流れ

- ① 児童・保護者アンケート実施 平成29年12月1日(金)～12月8日(金)
アンケート調査項目は、全市共通の「学校評価鳴門プランに基づき、学校独自調査項目を加えたものを調査用紙に印刷し配布、回収。※回収率 児童 98.8% 84.3%
児童用調査項目 鳴門プラン23項目+撫養独自4項目 計27項目
保護者用調査項目 鳴門プラン22項目+撫養独自2項目 計24項目
※別紙資料参照
- ② アンケート結果集計
鳴門教育大学葛上研究室に依頼し集計結果をグラフ化する。
- ③ 「自己評価」をまとめる
校内で集計結果を考察し、鳴門プランと学校の自己評価をまとめる。自己評価結果をもとに学校関係者評価資料を作成する。
- ④ 「学校関係者評価」を実施(2月16日金曜日15:40～校長室)
学校評議員により「自己評価」を評価する。
- ⑤ 「評価結果の報告と公表」を行う(2月下旬予定)
鳴門プランをまとめ、報告書を作成し、市教委へ報告する。校内では「学校関係者評価」結果をもとに公表文書を作成し、保護者へ配布するとともにホームページに掲載し結果を公表する。

2 児童アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

- ◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇
―は1ポイント未満の増減か同じ
△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問1 先生は、毎日の授業を分かりやすく教えてくれる

H28 97.4% H29 98.4% ○

昨年度と同様、全学年好評価であった。分かりやすい教え方と認識できるのは、学習内容が理解できていることであり嬉しい結果である。しかし、問3の結果がネガティブなものであったとしても、実態として学習内容の理解は十分とはいえないかも知れない。

問2 漢字や計算の力がついてきている

H28 89.9% H29 91.5% ○

9割を超える児童が基礎学力の獲得を実感している。その割合も昨年度よりわずかであるが上昇している。ただ、従前より力のある者が力の伸びを感じることは容易ではないことやその逆もあるため、この数値は基礎学力の定着を表すものではない。

問3 テストでは、思い通りの点数が取れている

H28 74.1% H29 68.2%

「あてはまる」から「まったくあてはまらない」までの4つの回答割合は、年次毎に個人の回答は変わっているかも知れないが、1年から6年までほぼ同じ比率であった。「もっと得点できるはずなんだが…」と悩む児童が3割強存在している。今後、①自己の能力を正しく知ること、②正しい自己能力理解から自分に合った課題を見いだすこと、③身につけた力を様々な活用できる力を育成することなどが課題となる。

問4 進んで運動し、体力づくりをしている

H28 82.8% H29 81.7%

学年が上がるほど、体力づくりへの積極性が低くなる傾向にある。また日常の休み時間における運動遊び観察や4年生から6年生の新体力テスト結果からは、運動する者とならない者の二極化は学年が上がる程大きくなる傾向にあることが見て取れる。

問5 授業中、人の話を集中して聞いている

H28 92.1% H29 95.9%

昨年度も9割以上が集中して聞くことができているよい傾向であったが、それよりもまた少し良くなっている。自己を客観的に見る力の成長が影響してくるのか、学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。

問6 宿題をきちんとしている

H28 92.9% H29 92.7%

昨年度とほぼ同じ割合であった。9割以上が宿題ができているが、学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。解法が分からないからできないのか、やる気が無いのか、生活リズムの乱れや疲れからする時間が無いのか個々の実態を探る必要がある。

問7 グループで調べたり、話し合ったりする学習が好きである

H28 84.6% H29 88.2%

昨年度より好評価の割合が上昇した。各学年とも4種の回答状況は、昨年度と同様の比率の割合であった。平成32年度から完全実施される新学習指導要領は「主体的・対話的で深い学び」を特徴としている。さらに授業の工夫改善が求められる。

問8 テレビやパソコンを使った学習が好きである

H28 86.5% H29 90.6%

昨年度より好評価の割合が上昇し9割を超えた。本年度 ICT 機器を活用した授業実践を目標の一つに設定し、タブレットや電子黒板を活用した成果であろう。機器を使うことを楽しむことも大切であるが、機器の活用は学ぶ手段であることを意識し、学力の向上を図っていかねばならない。

問9 自分には、よいところがある

H28 82.4% H29 84.4%



昨年度より好評価の割合が少し上昇した。学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。心の成長過程における自己観察力の成長や自己を見つめる不安定さによるものであろう。良いところがあると感じる自己有用感、心の安定や自信を生み、許容的雰囲気を持つことにつながる。認め、ほめ、勇気づける、励ますことを活発に行うことが大切である。

問10 先生は、勉強や運動、生活でがんばったときほめてくれる

H28 92.5% H29 92.6%



昨年度と同じ割合であった。各学年ともよく似た比率の回答割合であったことは、職員の対応姿勢の足並みが揃っていることの現れであろう。「ほめること」は大切である。今後それだけでなく「認めること」「勇気づけること」「励ますこと」も活発にできるよう取り組もうと考えている。

問11 物事がうまくいかない時、ねばり強くがんばり続けることができる

H28 86.2% H29 86.6%



昨年度とほぼ同じ割合であった。学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。問9と同様、心の成長過程における自己観察力の成長や自己を見つめる不安定さによるものであろう。運動や担当する役割だけでなく、長時間思考できる粘り強さも育成する必要がある。

問12 自分の判断で、行動するようにしている

H28 82.0% H29 85.4%



昨年度より好評価の割合が少し上昇した。学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。自己観察力の成長によるものであろう。自分で判断する際に「身勝手な自己決定」でなく、他の人たちを大切にすることを根拠にした自分の行動を決められるようにしなければならない。

問13 身の回りの整頓は、自分でできている

H28 84.3% H29 82.1%



昨年度より好評価の割合がやや下降した。学年が上がるにつれ、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。心の成長により、自分でしなければならないことの理解が深まることと、自分の実態が客観的に見えてくるものが相まって自己評価した結果であろう。自立心の強い子どもは、自分に自信があり、何事にも挑戦していく強い心を持つ。また心に余裕があり、人に優しく親切に接することができるため、多くの人が集まってくる傾向がある。自分で考え、行動し、責任をとることができる子どもに育つよう、具体的に状況を捉え、個の生活に応じた自立心を育成する必要がある。

問 14 朝は、決まった時間に起きています

H28 79.8% H29 82.9% ○

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。学年が上がるにつれ夜更かしが増え朝起きにくくなるのか、「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。問 13 と同様に、自立心育成の取組の一つとして改善に取り組む必要がある。

問 15 先生、友だち、近所の人に進んであいさつをしている

H28 85.4% H29 84.1% △

昨年度より好評価の割合がやや下降した。みんなにあいさつすることで、発言が積極的になったりコミュニケーションが円滑化しいじめ防止につながるとも言われる。校内での日常観察からはあいさつを返すことはよくできている。自発的にできるよう取り組む必要がある。

問 16 学級の係や当番の仕事、そうじなどに、積極的に取り組んでいる

H28 94.7% H29 88.9% ×

昨年度より好評価の割合が下降した。どの子も依頼された作業は意欲的に取り組んでいるが、校内での日常観察から、特に高学年の清掃態度に課題が見える。まず校内清掃の意義について理解を深めねばならない。

問 17 学級、学校の一員として、考えて行動している

H28 86.5% H29 86.6% —

昨年度と同じ割合であった。問 16 の結果との関連が見える。責任を果たす活動の推進とそれを支援する体制を実感させることにより帰属意識を育み、愛校心や郷土愛を育成したい。

問 18 地域の行事などに参加している

H28 67.1% H29 72.4% ◎

昨年度より好評価の割合が上昇した。本年度めざす子ども像の一つに「地域を知り、地域に関わる子」を掲げ取り組んだ成果であろう。地域の理解や世代を超えた交流は郷土愛を育み、地域を活性化させる。保護者問 23 結果から休日や放課後にゆとりの少ない子どもも多いようである。地域行事参加の効用について保護者への啓発が必要である。

問 19 先生は、困ったり悩んだりしたときに、相談にのってくれる

H28 88.3% H29 90.6% ○

昨年度より好評価の割合が少し上昇し 9 割を超えた。学年が上がるにつれ先生への相談が減少する実態があり、この影響か上学年になるにつれ「あまりあてはまらない」と回答する割合が増えてくる傾向にある。先生との人間関係は相談する・しないに大きく関わる。学級経営の充実に継続して取り組まねばならない。

問 20 学校へ行くのが楽しい

H28 88.4% H29 88.2%



昨年度とほぼ同じ割合であった。学年による回答割合の差も昨年同様見られない。「学校が楽しい」と感じる背景には、楽しい状況があること（プラス要因）と、嫌なことがないこと（マイナス要因）がある。全ての児童が学校を楽しく感じられるよう、プラス要因を増やしマイナス要因を無くす実践に取り組まなければならない。

問 21 事故などにあわないよう、いつも気をつけている

H28 97.0% H29 95.5%



9割を超えているものの、昨年度より好評価の割合が下降した。例年、低学年は保護者の声かけが頻繁に行われているためか注意深い実態が見て取れる。昨年度は高学年、本年度は中学年と高学年に「あまりあてはまらない」や「まったくあてはまらない」の回答が1割程度見られた。改善に取り組まねばならない。

問 22 避難訓練などは、真剣に取り組んでいる

H28 98.2% H29 95.2%



9割を超えているものの、昨年度より好評価の割合が下降した。全学年に「あまりあてはまらない」の回答が見られる。問 21 と合わせて、危機意識の低下は大きな課題である。

問 23 いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う

H28 97.0% H29 98.4%



昨年度より好評価の割合が少し上昇した。「いじめてもしかたのない時がある」と感じている2%（5名程度）の意識を変えなければならない。

問 24 3Lの3つの言葉を知っている

H28 82.8% H29 79.3%



低学年の認知度が低い。LOVE LEAD LEARN の言葉は知っているが、「3L」と尋ねられ、答えられなかったのではないだろうか。本校の特色ある取組である。さらなる啓発に取り組む必要がある。

問 25 参観日や行事の日にお家の人は来てくれます

H28 95.1% H29 91.9%



昨年度より好評価の割合は少し下降したものの、9割の高い参加率となっている。保護者問 22 の回答とも合致している。

問 26 撫養のまちが好きです

H28 85.4% H29 91.9%



昨年度より好評価の割合が上昇した。問 18 同様、本年度めざす子ども像の一つに「地域を知り、地域に関わる子」を掲げ取り組んだ成果であろう。

問 27 仲良しの友だちがいます

H28 質問なし H29 94.7%

本年度本校独自の質問項目である。良い結果であるが、5%（約 12 人）は仲良しがいないと感じている。100%を達成しなければならない。

3 保護者アンケート集計結果の考察

※年度後の数値は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計した割合)

◎は5ポイント以上の上昇 ○は5ポイント未満の上昇

―は1ポイント未満の増減か同じ

△は5ポイント未満の下降 ×は5ポイント以上の下降

問 1 子どもは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる

H28 85.7% H29 88.5% ○

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。子どもの学ぶ姿を直接観察する機会や家庭での親子の会話時間の増大が求められる。

問 2 子どもの学力の状況はよくわかっている

H28 87.3% H29 92.8% ◎

昨年度より好評価の割合が大きく上昇した。学年により「あまりあてはまらない」が1割を超えるなど、子どもの学力への関心の二極化傾向が見られる。

問 3 学校は、基礎的な学力定着に熱心に取り組んでいる

H28 87.7% H29 91.0% ○

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。基礎・基本に加え、応用・活用できる力の育成にも今以上に取り組まねばならない。

問 4 学校は、子どもの体力作りに熱心に取り組んでいる

H28 73.0% H29 80.0% ◎

昨年度より好評価の割合が大きく上昇した。その中でも低・高学年の評価がよかった。市で開催される、体操発表会や水泳検定会、陸上運動記録会への参加者児童数が約 1.5 倍増加したことなどが反映されたのであろう。

問 5 学校は、子どもの学習規律の定着に熱心に取り組んでいる

H28 82.4% H29 90.0% ◎

昨年度より好評価の割合が大きく上昇した。本年度 9 人の先生が市や県の代表として授業を公開し、それらを元に中・四国大会や県大会で研究発表も行った。全職員が学校をあげてチームを組んで取り組んだことが、児童を通じ保護者へ伝わったのであろう。

問6 子どもは、家庭学習(宿題)をきちんとしている

H28 92.6% H29 93.8% 

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。家庭学習(宿題)ができているかどうかの確認状況やそこでの言葉かけなどについて把握することも大切だと思われる。まずは、あまりできていない約6%(約15人)の児童への個別指導の充実が急務である。

問7 子どもは、自分のいいところを理解している

H28 79.9% H29 80.4% 

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。問9から児童の約84%が「自分には、よいところがある」と自覚している。社会性の基礎となる自己有用感の育成は重要である。

問8 子どもがよいことをしたときは、積極的に褒めている

H28 94.7% H29 96.7% 

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。自己有用感は、他者から、特に家族から肯定的に受け入れられることによって育まれる。好ましい状況である。

問9 子どもは何事にも粘り強く取り組む

H28 70.9% H29 67.6% 

問10 子どもが粘り強く取り組めるよう、家庭でも応援している

H28 92.6% H29 88.6% 

問9、問10ともに、昨年度より好評価の割合が下降した。粘り強さが弱いと、自己憐憫や、他者非難に結びつきやすい。粘り強の育成を目指し、価値があり達成可能な目標を定める能力の育成を図らねばならない。

問11 子どもは、自分の身の回りのことを自分でしている

H28 77.8% H29 84.8% 

昨年度より好評価の割合が大きく上昇した。発達に応じた生活上の自立だけでなく、学習上や精神上的の自立を促す必要がある。

問12 子どもは、ルールを守る意識が育っている

H28 91.8% H29 96.2% 

昨年度より好評価の割合が上昇した。集団生活を通してマナーやルールを守る意識を育てるとともに、人間関係力などを育むことが大切である。

問13 子どもは、先生、友達、近所の人に進んであいさつをしている

H28 77.5% H29 78.1% 

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。ある研究結果によると、1学年が高くなると家庭内でのあいさつをする頻度が減る傾向になる。2「おはよう」「おやすみなさい」を言え

ば「あいさつ」をしていると考えている。3家庭内での「あいさつ程度」を規定する要因は、「団欒時間」「学年」「家庭生活の満足度」等が大きい。4「家庭生活の満足度」は学年が低いほど高い。5生活の満足度を規定する要因は「団欒時間」が大きい。などが明らかとなっている。家庭への啓発に力を注ぐ必要がある。

問 14 子どもは、人のことを大切にして、友だちと仲良くしている

H28 96.3% H29 96.6% —

昨年度と同じ割合であった。約4%（約10名）の変容を促す取り組みが不可欠である。

問 15 子どもと社会や将来のことを話し合っている

H28 69.2% H29 70.5% ○

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。子どもが夢を語らなくなるは、現実が見えてきたという点で、ひとつの成長の表れともいえる。主体的に生きるためにも、中学や高校、大学、仕事などに関して楽しい話を聞かせること、さらに教職員や保護者が人生や生活を楽しむ姿を見せることが、社会や将来のことを語る事が重要であろう。

問 16 子どもは、学校のことをよく話してくれる

H28 79.1% H29 77.6% △

昨年度より好評価の割合が下降した。話す・聞くは車の両輪であり、子どもは聞いてくれる環境が整っていないと進んで語ろうとはしない。団欒の工夫の啓発が必要である。

問 17 子どもは、楽しんで学校に行っている

H28 93.4% H29 93.4% —

昨年度と同じ割合であった。約7%（約17名）の家庭の児童は何らかの悩みを抱えている。個を見つめ、変容を促す取り組みが不可欠である。

問 18 子どもが交通ルールを守るよう、働きかけている

H28 96.7% H29 97.2% ○

昨年度より好評価の割合が少し上昇した。全ての方が子どもの安全に働きかけるよう啓発しなければならない。

問 19 子どもと防災のことについて、家で話し合っている

H28 77.5% H29 68.6% ×

昨年度より好評価の割合が大きく下降した。物心両面の備えあれば憂いなしである。重要な課題である。

問 20 学校は、いじめや生徒指導の問題について、素早く対応してくれる

H28 82.4% H29 80.0% △

昨年度より好評価の割合が少し下降した。改善のポイントは素早さにあるのか、対応過程、

結果内容にあるのか確認し、改善を図らねばならない。

問 21 学校から、情報が十分発信されている

H28 80.7% H29 79.1% △

昨年度より好評価の割合が少し下降した。発信情報には個人的なものや学級・学年・学校共通のものがある。伝えたい情報と知りたい情報が相応するよう配慮しなければならない。

問 22 学校行事などに積極的に参加している

H28 84.4% H29 90.0% ◎

昨年度より好評価の割合が大きく上昇した。活発に行事参加していただくことで知りたい情報が発現しているとすれば、問 21 の結果はその反映であろう。

問 23 子どもは、ゆとりのある生活を送れている

H28 質問なし H29 75.7%

学年が上がるほど「まったくあてはまらない」割合が高くなる傾向にあるが、下学年でも「あまりあてはまらない」の割合は 2 割を超えている。ゆとりと規則正しさの両面から見ていく必要がある。

問 24 PTA 活動に参加している

H28 質問なし H29 87.6%

好評価の割合が大きい。PTA 組織が確立されており、学年毎の役割分担が明確に理解されているからであろう。